

第1回高度情報セキュリティ実践講座の報告

2006年9月13日

NPO法人電子自治体アドバイザークラブ

1. 第1回 高度情報セキュリティ実践講座の概要

日時: 平成18年9月13日(金) 受付: 13:00 ~ 13:30 会場: 奈良市北部会館3階

会場: 奈良市北部会館3階 会議室2/3

講座出席者状況: 出席者総数: 49名 内訳: 自治体関係者 11名
企業関係者 21名
一般 17名

講演 - 1: 危機管理・事業継続マネジメント(BCM) 13:30 ~ 15:00

帝塚山大学 経営情報学部 教授 博士 公認システム監査人 高瀬宜士氏

【概要】

BCP (Business Continuity Plan)とは、事業継続計画と訳され「潜在的損失によるインパクトの認識を行い実行可能な継続戦略の策定と実施、事故発生時の事業継続を確実にする継続計画。事故発生時に備えて開発、編成、維持されている手順及び情報を文書化した事業継続の成果物。」と定義されている。新たな脅威の発生、事業の再編成やM&Aなど、企業変化や環境変化に伴う見直しと再作成が必要である。即ち「組織を脅かす潜在的なインパクトを認識し、利害関係者の利益、名声、ブランド及び価値創造活動を守るため、復旧力及び対応力を構築するための有効な対応を行うフレームワーク、包括的なマネジメントプロセス」が必要となる。

【講師のプロフィール】

帝塚山大学 経営情報学部 教授 博士(国際公共政策)、公認システム監査人、
総務省電子政府推進員、システム監査学会理事、日本セキュリティマネジメント学会理事
日本社会情報学会評議員、情報システムコントロール協会大阪支部理事、e-AAC シニア-アドバイザー

講演 - 2: インターネットで使われる暗号について 15:10 ~ 16:40

奈良先端技術大学院大学 情報科学センター教授 博士 小山正樹氏

【概要】

暗号は有史以来、特に戦時における情報伝達の手段として用いられてきた。インターネットを単に研究用とか趣味のネットワークでなく電子商取引などに用いるビジネス世界のツールとして用いるためには、そのセキュリティが最も重要になる。ここでは、暗号の歴史を振り返るとともにインターネットでそれらがいかに進化したか、また、公開

鍵暗号や SSL(Secure Socket Layer)などの今までにない暗号についてその概要を説明する。

【講師のプロフィール】

大阪大学博士課程終了後、1969年、日本電信電話公社電気通信研究所に入社し、伝送技術の研究に従事。その後、研究開発本部調査役、伝送システム研究所研究部長、研究企画部長を歴任され、1992年、技術情報センター所長(理事)に就任。1994年、奈良先端科学技術大学院大学教授として現在に至る。2005年、世界で最も権威があり、最も大きな学会、IEEE(本部:米国)の関西支部の委員長に就任。囲碁教育研究会のメンバーで囲碁の対戦型プログラムを開発し、インターネット碁会所などいくつかのページを運営している。 e-AAC 副理事長

2. 所感

(1) 危機管理・事業継続マネジメント(BCM)の重要性 帝塚山大学教授 高瀬宜士氏

性善説をベースにする歴史的な日本文化と海外の文化の違いからくる情報セキュリティに関する対応の違いを解説され、性善説でも、性悪説でもない、性弱説であるべきと解説された。その上に立って、事業継続計画(BCP)、情報セキュリティの捉え方を事例をまじえながら、組織を脅かす潜在的なインパクトを認識し、包括的なマネジメントプロセスの重要性を説明された。我が国での企業でBCPを策定している企業は、22%で、今後は、日本企業も国際規格化を含めたBCMについて取り組んでいく重要性が高まっている。情報セキュリティ政策の流れ、変遷があり、システム監査基準、コンピュータウイルス対策基準、コンピュータ不正アクセス対策基準、電子署名法、情報セキュリティ監査制度などがあり、BCPの国際標準化の動向の解説があった。

(2) インターネットで使われる暗号について 奈良先端技術大学院大学 教授 小山正樹氏

インターネットの生い立ち、守秘性のないネットワークといわれる背景などを説明し、何故、暗号が必要になったかについて解説された。歴史的ないくつかの暗号(シーザー暗号、スパルタ暗号)の原理を説明し、現在利用されている暗号の仕組みについて、素因数分解の計算例をまじえて、分りやすく解説された。その原理を理解したうえで、暗号通信の仕方、デジタル通信における暗号化、DES、公開鍵方式による鍵の配送、公開鍵による認証、相手認証の仕組み、認証局による相手認証、X509 説明書などについて、解説された。最後に、インターネットで、最も信頼性のあるSSLプロトコルシーケンスについて解説された。専門性の高い暗号について、通常10時間以上かけて講義する内容を、90分で素人にも分るように解説された。

3. 講演会の風景

[写真1](#)、[写真2](#)、[写真3](#)、[写真4](#)、[写真5](#)、

第2回高度情報セキュリティ実践講座にも、ぜひ、ご参加ください。

予定日:10月16日(月)、 受付:13:00~

会場の変更: 調整中(近日中に連絡します)

講演 - 1:「政府機関の情報セキュリティ対策統一基準と地方自治体への影響」

(公認システム監査人 安本哲之助

氏)

講演 - 2:「情報セキュリティマネジメントの必要性について」

(NEC システムテクノロジー株式会社 脇村修三

氏)

【共催】: 帝塚山大学 経営情報学部 高瀬研究室 (<http://www.nara-u.ac.jp/>)

NPO 法人 電子自治体アドバイザークラブ (e-AAC)

(<http://e-aac.naist.jp/e-AAC/>)

【後援】: 近畿経済産業局、奈良県、奈良県市長会、奈良県町村会、奈良県中小企業支援センタ

【協力団体】: 奈良県警、帝塚山大学、奈良先端技術大学院大学、富士通(株)

NTT 西日本(株)、日本電気(株)、近鉄ケーブルネットワーク(株)